

2024年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2025年7月14日
大阪信愛学院中学校高等学校
学校評価委員会

はじめに

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため、2024年12月に本校の教員、及び保護者に「学校自己評価アンケート」を実施した。また、生徒には「授業評価アンケート」を3月にWeb配信し、結果を集約した（教員：有効回答数41/配信回収数58、保護者：有効回答数422/配信回収数536、生徒：有効回答数416/配信回収数422）。その後、中学校高等学校の保護者の代表役員、卒業生の代表役員、卒業生保護者の代表役員に学校関係者評価を実施していただいた。本文書は学校評価委員会が分析したものである。

本校の設立母体は、フランスに本部のある「ショファイユの幼きイエズス修道会」である。系列校は日本に4校あるが、系列校の中で保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして大学を併設しているのは本校のみである。系列校と共にキリスト教的価値観に基づき、自分と他者がかけがえのない存在であることを認識するとともに、特に弱い立場に立って物事を考えることができる価値観を育てている。

本学校評価は、本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、伝統の上にたった変革を成し遂げるための有効な検証の手段としてとらえている。

1. 建学の精神 ～スクールミッション～

「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」

1877年（明治10年）、フランスから派遣された4人のシスターたちは捨て子たちを養育することから始めた。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神の表れである。その精神に従い、弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践した。

1884年（明治17年）、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立された。信愛に集う生徒たちが建学の精神を体現し、社会に貢献することを目指す。

2. 教育目標

(1) キリストの教えに根ざした教育

キリストの人間観・価値観、及び『幼きイエズス修道会の精神』を基盤として、生徒の宗教心を呼び覚まし、心豊かな人間を育成する。

(2) 一人ひとりを大切にする教育

キリスト教的教育理念の中心である『神の愛』を土台として、生徒と教師、生徒相互の関わりを通して一人ひとりが大切にされ、受け入れられるよう配慮し、相互の人権を尊重する精神と態度を育てる。

(3) 能力の開発を目指す教育

生徒一人ひとりが与えられた能力に気づき、それを最大限に開発して、知・徳・体の調和のとれた人間となるよう育成する。

(4) 自己形成を促す教育

人間としての生き方を自覚し、主体性をもった学習や生活による目標の実現を目指し、常に自分自身の成長を図ろうとする自己形成力を持った生徒を育成する。

(5) 社会貢献への態度を育成する教育

各自の能力・個性を十分に生かし、時の動きに対応したよりよい社会の実現に貢献していくことのできる生徒の育成を図る。

3. 目指す教師像

教員の意識向上、及び組織の健全化を図るために、令和元年度よりモチベーション・マネジメント制度（教員評価制度）を導入している。モチベーション・マネジメント制度は、学校目標を各学年・各分掌にブレイクダウンし、さらに各々の教員がそれに沿って目標を設定する。これによって、個人の目標と学校目標が連動し、学校目標が効率よく達成されることを目指したものである。年度始めに、自身が所属するリーダーと目標設定を行い、中間フォロー、学年末の振り返り面談等を通して、目標達成を目指すために個々がPDCAサイクルを回す。また、キャリアパスと各段階での役割を明確にすることで、組織の健全化を図る。このモチベーション・マネジメント制度の設計にあたり、「目指す教師像」を明文化し、それをもとに議論を進めた。以下に本校の目指す教師像を示す。

キリストに信頼し、愛の実践に生きる教師

〈生徒に対して〉

- ・生徒の無限の可能性を信じ、成功と失敗を通して成長を支える教師
- ・コミュニケーションを十分にとって信頼される教師
- ・温かさを持って、場面に応じて厳しく指導できる教師

〈チーム（組織・同僚）に対して〉

- ・学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師
- ・敬意、感謝、信頼をもって、お互いに言うべきことは言い合う教師
- ・コミュニケーションを十分にとって助け合う教師

〈自身に対して〉

- ・専門分野に精通し、授業力、指導力を高め続ける教師
- ・向上心を持って新しいことに挑戦しながら、振り返り、改善できる教師
- ・社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追究する教師
- ・常に心が健やかな教師

4. スクールポリシー

〈グラデュエーションポリシー〉

- ・自身の持っている能力を十分に発展させ、最大限の進路を実現する学力が身についている。
- ・グローバル社会に貢献できる知識・技能、思考力・判断力・表現力・読解力が身についている。
- ・学問及び実生活において、物事を探究しながら正しい選択及び行動できる習慣が身についている。
- ・違いを受け入れ、かけがえのない存在であることを認め合う価値観が身についている。
- ・弱い立場に立って物事を考えることができる視野が身についている。

〈カリキュラムポリシー〉

- ・授業は、教師から生徒への一方的な内容とせず、生徒と教師、生徒同士が双方向に学び、知識・技能、思考力・判断力・表現力・読解力を個々に最大限伸長できる内容とする。
- ・各コースごとの教育課程は、目標の進路を確実に実現できるように設定し、ハイレベル進学講座、Shin-Ai 講座、放課後自主学習セミナー、ICT を利用した学習コンテンツなど、最高の学習環境を常に見直ししながら生徒に提供する。（中学）
- ・各コースごとの教育課程は、目標の進路を確実に実現できるように設定し、校内予備校、学習メンター制度、夏休み中の本校教員による夏期講座及び大手予備校による特別講座、ICT を利用した学習コンテンツなど、最高の学習環境を常に見直ししながら生徒に提供する。（高校）
- ・「総合的な探究の時間」（「総合的な学習の時間」）を教育課程の中心に位置付け、各教科の学習に探究活動が重要であることを意識しながら学びを進め、探究力とともに、主体的に学習に向かう姿勢を養う。
- ・本学院の設立母体である幼きイエズス修道会のシスター、及びイエス・キリストの生き方を通して「どのような人になりたいか」を自身の進路と共に考える教育を実践する。

〈アドミッションポリシー〉

- ・本校の教育方針に共感し、自身の能力を最大限に伸ばす意欲のある生徒(児童)。
- ・中学校(小学校)で必要な基礎学力を備え、入学後も真面目に学習に取り組む生徒(児童)。
- ・落ち着いた雰囲気の中で、学校生活を送ることを希望する生徒(児童)。

5. 2024 年度（令和 6 年度）学校目標

建学の精神の具現化を目指し、本校の教育目標の達成と学院の発展を図るために、次の内容を重点目標に掲げた。

- (1) 目指す教師像の実現
- (2) スクールミッション・スクールポリシーの実現
- (3) ICT の活用充実
- (4) 学習意欲及び学力向上
- (5) 進学実績の向上
- (6) 入学者数の増員

2024 年度（令和 6 年度） 学校目標と具体的方策及び評価指標

	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
(1)	目指す教師像の実現	モチベーション・マネジメント制度によって、教員の意識向上と行動の変容を図る。	モチベーション・マネジメント制度において、教員による自己評価を行い、年度末における達成率が 80%
(2)	スクールミッション・スクールポリシーの実現	①教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による学校評価アンケート該当項目 80% ・生徒による自己評価アンケート該当項目 80% ・保護者による学校評価アンケート該当項目 80%
		②各行事をスクールポリシーに沿って運営する。	
(3)	ICT 活用充実	①ICT 環境の充実・拡充を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による学校評価アンケート該当項目 80% ・保護者による学校評価アンケート該当項目 80% ・生徒による自己評価アンケート該当項目 80%
		②各授業における Chromebook の利用調査を行う。	
(4)	学力向上	①授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。	授業評価アンケート該当項目 80%
		②研究授業を実施し、教科指導強化を図る。	分科会参加後の満足度調査アンケート該当項目 80%
		③各種検定の指標を示し、生徒が率先して資格取得に取り組む姿勢をサポートする。	< 中学 > 英検取得率指標 中 2 S 文理) 3 級 50% 学際) 4 級 50% 中 3 S 文理) 準 2 級 40% 学際) 3 級 50% < 中学 > 漢検取得率指標 中 1 5 級・4 級 80% 中 2 4 級 60% 中 3 4 級・3 級 70% < 高校 > 英検 取得率指標 高 1 特進) 準 2 級 50% 総合・看護) 3 級 50% 高 2 特進) 準 2 級 80% 総合・看護) 準 2 級 40% 高 3 特進) 2 級 50% 総合・看護) 準 2 級 60% < 高校 > GTEC スコア指標(高 2・高 3) スコア平均 前年度比較 40 ポイント以上
		④模試の指標を示し、学年として学力向上に努める。	高 1 2 学期以降のベネッセ GTZ ゾーン B 50% 高 2 特進 2 月共通テスト模試(河合) ss60) 3 名 ss55) 5 名 ss50) 10 名 高 2 総合・看護 2 月共通テスト模試(ベネッセ) GTZ ゾーン S) 2 名 A) 7 名 B) 42 名
(5)	進学実績向上	生徒の能力を最大限に伸ばし、希望する進路を実現するための学習指導と進路指導を担任と教科担当者が密に連携して実現する。	国公立大 合格者数 15 名 ※京阪神大または旧帝大を含む 関関同立 合格者数 30 名 産近甲龍・三女子大 合格者数 30 名 ※総合進学・看護医療は上記私立大学の合格に総合型選抜、学校選抜型(公募制)、一般入試のいずれかでの合格を含む
(6)	入学者数増員	①学びの環境を整え、受験生とその保護者にアピールする。	入学者数 中学) 50 名 高校) 240 名
		②重点地域を意識した募集活動を行う。	
		③各種イベント、広報ツール・方法の見直しや改善を行いながら募集活動を行う。	

6. 2024年度（令和6年度）学校評価アンケートと結果分析 及び 評価

アンケートは、7分野25項目について行った。結果と分析は以下の通りである。分析はA（よくあてはまる）を+2、B（ややあてはまる）を+1、C（あまりあてはまらない）を-1、D（まったくあてはまらない）を-2として、各評価A～Dの割合に乗じたものを下段にスコアとして中学と高校別に示した。スコア0.8以上のものを良好と考え、それよりスコアが下回るものを要検討事項と考えた。

A：信愛教育・カリキュラムポリシーについて

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%
		A	B	C	D		A	B	C	D	
A: 信愛教育・カリキュラムポリシーについて	1 授業は、教師から生徒への一方的な内容とせず、生徒と教師、生徒同士が双方向に学び、知識・技能、思考力・判断力・表現力・読解力を個々に最大限伸長できる内容となっている。	21.8	62.3	14.7	1.2	%	19.5	73.2	7.3	0.0	%
	2 (高校)各コースごとの教育課程は、目標の進路を確実に実現できるように設定し、校内予備校、学習メンター制度、夏休み中の本校教員による夏期講座及び大手予備校による特別講座、ICTを利用した学習コンテンツなど、最高の学習環境を常に見直しながら生徒に提供されている。 (中学)各コースごとの教育課程は、目標の進路を確実に実現できるように設定し、ハイレベル進学講座、Shin-Ai講座、放課後自主学習セミナー、ICTを利用した学習コンテンツなど最高の学習環境を常に見直しながら生徒に提供されている。	28.4	58.3	11.4	1.9	%	41.5	48.8	9.8	0.0	%
	3 「総合的な学習の時間(中学)」「総合的な探究の時間(高校)」を教育課程の中心に位置付け、各教科の学習に探究活動が重要であることを意識しながら学びを進め、探究力とともに、主体的に学習に向かう姿勢が養われている。	24.5	59.3	14.8	1.4	%	36.6	48.8	14.6	0.0	%
	4 本学院の設立母体である幼きイエズス修道会のシスター、及びイエス・キリストの生き方を通して「どのような人になりたいか」を自身の進路と共に考える教育が実践されている。	20.2	61.0	17.8	1.0	%	17.1	61.0	19.5	2.4	%

< 1 > ~ < 4 >

評価項目 番号	中学保護者					高校保護者					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_1	41.3	52.0	6.7	0.0	1.28	17.6	64.6	16.4	1.4	0.81	19.5	73.2	7.3	0.0	1.05
設問_2	36.0	50.7	10.7	2.7	1.07	26.8	59.9	11.5	1.7	0.99	41.5	48.8	9.8	0.0	1.22
設問_3	37.3	50.7	12.0	0.0	1.13	21.7	61.2	15.4	1.7	0.86	36.6	48.8	14.6	0.0	1.07
設問_4	35.1	52.7	12.2	0.0	1.11	17.0	62.8	19.0	1.2	0.75	17.1	61.0	19.5	2.4	0.71

【分析と改善策】

3つのスクールポリシーのうちのカリキュラムポリシーを本項目の設問とした。高校保護者及び教員において<項目4>が学校評価を開始してから初めて要検討事項となった。本項目は建学の精神に直結するものであり、早急な改善が必要である。管理職をはじめ全教員が建学の精神に立ち返り、その重要性を再認識すると同時に教育活動の見直しをする必要がある。本項目は管理職とカトリック・人権教育推進部を中心に検討し、全教員で改善する。また、設問内にある「進路と共に」という狭い範囲の文言ではなく、「生き方に照らし合わせて」に広げた方が相応しいと考える。

【評価】

「信愛教育・カリキュラムポリシーについて」の今年度の評価は、高校保護者及び教員の同じ項目において要検討事項が1つあるため、A～Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

B：教科指導について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
B:教科指導について	5	20.2	58.4	20.0	1.4	26.8	65.9	7.3	0.0
	6	25.9	59.9	12.6	1.7	31.7	56.1	12.2	0.0
	7	35.2	49.2	14.0	1.7	46.3	36.6	14.6	2.4
	8	34.4	54.4	10.2	1.0	51.2	48.8	0.0	0.0
	9	26.3	62.8	9.5	1.4	26.8	68.3	4.9	0.0

< 5 > ~ < 9 >

評価項目 番号	中学保護者					高校保護者					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_5	38.7	54.7	6.7	0.0	1.25	16.2	59.2	22.8	1.7	0.65	26.8	65.9	7.3	0.0	1.12
設問_6	40.0	49.3	10.7	0.0	1.19	22.8	62.1	13.0	2.0	0.91	31.7	56.1	12.2	0.0	1.07
設問_7	45.3	41.3	10.7	2.7	1.16	32.9	50.9	14.7	1.4	0.99	46.3	36.6	14.6	2.4	1.10
設問_8	45.9	44.6	8.1	1.4	1.26	32.0	56.5	10.7	0.9	1.08	51.2	48.8	0.0	0.0	1.51
設問_9	40.0	52.0	6.7	1.3	1.23	23.3	65.1	10.1	1.4	0.99	26.8	68.3	4.9	0.0	1.17

【分析と改善策】

高校保護者において項目< 5 >が要検討事項となった。これは昨年度から大きな下げ幅となっているため、授業評価アンケートと一緒に早急に検討する必要がある。また、中学校においては、高校とは逆に昨年度から大きな改善が見られている。これは、これまで授業だけに焦点を当てて改善を試みてきたが、学校全体として、どれだけ学習に力を入れているかということを発信できた効果が考えられる。また、コース別授業の教科を増やしたことも大きいと考えられる。高校の改善策としては、これまで実施してきた授業評価アンケートとは別に、定期的に簡易的な授業アンケートを行い、授業担当者にフィードバックしてその都度、授業改善に努める必要があると考える。

【評価】

「教科指導について」の今年度の評価は、高校保護者において要検討事項1つあるため、A~Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

C：教科外活動について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
C:教科外活動について	10 部活動や生徒会活動が活発に行われている。	39.1	48.8	10.0	2.1	56.1	39.0	4.9	0.0
	11 学校行事が充実している。	32.7	53.3	12.3	1.7	53.7	41.5	4.9	0.0
	12 学内外の活動を通して、ボランティア精神を育む教育が行われている。	21.9	53.3	23.3	1.4	19.5	63.4	17.1	0.0

< 1 0 > ~ < 1 2 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員					
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_10		49.3	37.3	10.7	2.7	1.20	36.9	51.3	9.8	2.0	1.11	56.1	39.0	4.9	0.0	1.46
設問_11		57.3	36.0	6.7	0.0	1.44	27.4	57.1	13.5	2.0	0.94	53.7	41.5	4.9	0.0	1.44
設問_12		32.0	54.7	12.0	1.3	1.04	19.7	53.0	25.8	1.4	0.64	19.5	63.4	17.1	0.0	0.85

【分析と改善策】

高校保護者において項目< 1 2 >が要検討事項となった。一昨年度は同項目が中学保護者、昨年度は教員が要検討事項であったが、検討対象が変化している。これまでは、高校は「赤い羽根の共同募金活動」参加が大きな柱となっていたが、これだけでは十分ではないこと、活動の発信もうまくできていないと推測できる。そのため、保護者をはじめ、HPやSNSなどで活動をしっかりと配信していく必要があると考える。また、p5で要検討事項であった< 項目 4 >と通じていることも推測されるため、管理職及びカトリック人権教育推進部で早急に検討し、改善する必要がある。

【評価】

「教科外活動について」の今年度の評価は、高校保護者において要検討事項が1つあるため、A~Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

D：進路指導について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%
		A	B	C	D		A	B	C	D	
D: 進路指導について	13 (中学)進路について意識を高める機会(進路講演会など)の設定が適切である。 (高校)生徒の希望に沿った進路指導が行われている。	31.7	53.8	12.9	1.7	%	61.0	31.7	7.3	0.0	%
	14 (中学)体験学習(職業体験・職場体験・大学体験など)の設定が適切である。 (高校)進路説明会や進路プログラム、キャリア教育等が、生徒が将来を考えることのできる内容になっている。	30.5	56.9	11.4	1.2	%	52.5	47.5	0.0	0.0	%
15 (中学)大学入試を見据えて英語四技能等の育成が行われている。 (高校)大学入試に対応した適切な指導(英語四技能等を含む)が行われている。	23.8	58.9	15.7	1.7	%	37.5	60.0	2.5	0.0	%	

< 1 3 > ~ < 1 5 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員				
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)
設問_13	41.3	49.3	9.3	0.0	1.23	29.6	54.8	13.6	2.0	0.96	61.0	31.7	7.3	0.0	1.46
設問_14	45.3	45.3	8.0	1.3	1.25	27.2	59.4	12.2	1.2	0.99	52.5	47.5	0.0	0.0	1.53
設問_15	30.7	61.3	6.7	1.3	1.13	22.3	58.4	17.6	1.7	0.82	37.5	60.0	2.5	0.0	1.33

【分析と改善策】

全項目において良好な結果となった。昨年度は、項目< 1 3 >が中学校保護者において要検討事項であったが大きな改善となった。これは、改善策として、大学入試を見据えた進路講演会を実施したこと、設問について「中高一貫の進路指導」をイメージできる表現にしたことが挙げられる。また、社会人講演会などを復活させ、すべての進路行事において希望する保護者には参加していただいたことも大きいと考える。

【評価】

「進路指導について」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A~Cの3段階で評価(評価Aが最も評価が高い)し、Aとする。

E：生徒指導について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
E:生徒指導について	16 教員の生徒指導や生徒への関わりが丁寧に行われている。	37.1	47.1	13.2	2.6	50.0	42.5	7.5	0.0
E:生徒指導について	17 校内におけるいじめの早期発見、防止が適切に行われている。	28.4	56.1	13.4	2.1	45.0	45.0	10.0	0.0
E:生徒指導について	18 生徒一人ひとりに対し、必要に応じて適切な支援が行われている。	27.6	53.7	16.6	2.1	40.0	50.0	10.0	0.0

< 16 > ~ < 18 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員				
設問_16	49.3	44.0	6.7	0.0	1.36	34.4	47.8	14.6	3.2	0.96	50.0	42.5	7.5	0.0	1.35
設問_17	42.7	42.7	13.3	1.3	1.12	25.3	59.0	13.4	2.3	0.92	45.0	45.0	10.0	0.0	1.25
設問_18	45.3	45.3	9.3	0.0	1.27	23.7	55.5	18.2	2.6	0.80	40.0	50.0	10.0	0.0	1.20

【分析及び改善策】

全項目において良好な結果となった。昨年度は項目< 16 >が中学保護者において要検討事項であったが、大きな改善となった。これは、教員がその場にあった生徒指導を実践することができたと同時に、中学校生活全般の満足度も関係していると考えられる。ただし、高校保護者においては項目< 18 >がスコア0.80と決して高い評価とは言えないため注意が必要である。必要な支援が行われていないと考えている生徒がいるということを念頭に入れてサポートしていく必要がある。また、設問の表現も分かりにくい部分があると推察するため「支援が必要な生徒に丁寧にサポートが行われている」等の文言に修正する必要があるかもしれない。再度、学校評価委員会で検討を行う。

【評価】

「生徒指導について」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A～Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Aとする。

F：保護者と学校との連携について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%
		A	B	C	D		A	B	C	D	
F:保護者と学校との連携について	19 各種行事の案内が適宜行われている。	50.8	45.6	2.9	0.7	%	52.5	42.5	5.0	0.0	%
	20 学校のホームページ(ブログ)やSNSによる情報配信が充実している。	30.4	53.9	14.0	1.7	%	28.2	61.5	7.7	2.6	%
F:保護者と学校との連携について	21 Classiを使用した連絡が、適切に運用されている。	62.9	34.4	2.1	0.5	%	75.0	22.5	2.5	0.0	%
	22 保護者説明会・個人懇談の内容、回数が適切である。	48.2	47.5	3.8	0.5	%	62.5	30.0	7.5	0.0	%

< 1 9 > ~ < 2 2 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員					
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_19		64.0	34.7	1.3	0.0	1.61	48.0	48.0	3.2	0.9	1.39	52.5	42.5	5.0	0.0	1.43
設問_20		40.0	52.0	8.0	0.0	1.24	28.3	54.3	15.3	2.0	0.92	28.2	61.5	7.7	2.6	1.05
設問_21		73.3	26.7	0.0	0.0	1.73	60.7	36.1	2.6	0.6	1.54	75.0	22.5	2.5	0.0	1.70
設問_22		61.3	38.7	0.0	0.0	1.61	45.4	49.4	4.6	0.6	1.34	62.5	30.0	7.5	0.0	1.48

【分析及び改善策】

昨年同様、中学及び高校ともに全項目良好な結果であった。引き続き、各項目における取り組みに努める。

【評価】

「保護者と学校の連携について」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A～Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Aとする。

G：施設設備について、全般

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
G:施設設備について、全般	23 学校内の施設や設備が適切に運用されている。	33.0	51.5	13.3	2.1	27.5	52.5	17.5	2.5
	24 避難訓練等、学校の日常の危機管理対策が適切である。	29.6	61.1	8.7	0.7	15.4	71.8	10.3	2.6
25 電話や受付での対応が適切である。	46.0	46.9	6.2	1.0	35.9	53.8	7.7	2.6	
26 信愛学院の教育に満足している。	36.1	48.2	13.8	1.9	40.0	52.5	7.5	0.0	

< 2 3 > ~ < 2 6 >

評価項目 番号	中学保護者					高校保護者					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_23	50.7	45.3	2.7	1.3	1.41	29.2	52.9	15.6	2.3	0.91	27.5	52.5	17.5	2.5	0.85
設問_24	43.2	51.4	5.4	0.0	1.32	26.6	63.2	9.4	0.9	1.05	15.4	71.8	10.3	2.6	0.87
設問_25	58.7	38.7	2.7	0.0	1.53	43.2	48.7	7.0	1.2	1.26	35.9	53.8	7.7	2.6	1.13
設問_26	53.3	40.0	5.3	1.3	1.39	32.4	50.0	15.6	2.0	0.95	40.0	52.5	7.5	0.0	1.25

【分析及び改善策】

全項目において良好な結果となった。昨年度は、項目< 2 4 >が教員において要検討事項であったが改善した。これは避難訓練の機会を多くすることや、初めての防犯訓練を実施したことが要因であると考えられる。引き続き、各項目における取り組みに努める。

【評価】

「施設設備について、全般」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A~Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Aとする。

7. 2024年度（令和6年度）生徒授業評価アンケートと結果分析 及び 評価

アンケートの評価観点は10項目で、全校生徒に対して、受講している全教科・全科目を対象に実施した。生徒たちの集中力を考慮して、項目が多くなりすぎないように心がけている。また、アンケートの結果は、全教員に配布し、以後の教育活動に活かすよう努めている。結果に関しては、全体、中学校、高等学校に分けてまとめた。

分析は、A（よくあてはまる）を+2、B（ややあてはまる）を+1、C（あまりあてはまらない）を-1、D（まったくあてはまらない）を-2として、各評価A～Dの割合に乗じたものを下欄にスコアとして示した。スコア0.8以上のものを良好と考え、それよりスコアが下回るものを要検討事項と考えている。

【結果】

授業評価アンケート 結果<2023年12月実施分> 全体・中学校・高等学校

中高全体

	A	B	C	D	2024年度 A+B	2023年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができる。	59.4%	33.7%	5.8%	1.2%	93.0%	93.3%
②その授業で何が重要なかがわかる。	53.2%	35.8%	8.6%	2.4%	89.0%	90.5%
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	52.9%	36.1%	8.6%	2.5%	89.0%	89.8%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	58.7%	32.8%	6.1%	2.4%	91.5%	92.9%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	53.9%	34.7%	8.5%	2.9%	88.6%	90.6%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	49.8%	38.4%	8.8%	3.0%	88.2%	89.1%
⑦授業に興味・関心をもつことができる。	50.4%	34.9%	11.0%	3.6%	85.3%	87.8%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	50.3%	37.0%	9.4%	3.3%	87.3%	88.7%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	53.8%	34.3%	8.5%	3.3%	88.1%	89.5%
⑩先生の指導に満足している。	58.2%	32.3%	6.9%	2.6%	90.5%	91.8%

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

中学校

	A	B	C	D	2024年度 A+B	2023年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	50.9%	42.4%	6.3%	0.5%	93.3%	88.4%
②その授業で何が重要なかがわかる。	49.2%	42.6%	7.4%	0.8%	91.8%	86.6%
③授業の進捗やレベルが自分に適切だと感じる。	47.8%	42.9%	8.1%	1.2%	90.7%	87.7%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	52.5%	40.4%	5.3%	1.8%	92.9%	90.3%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	45.7%	41.4%	10.5%	2.4%	87.1%	85.9%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	42.6%	44.7%	10.3%	2.5%	87.3%	85.5%
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	49.5%	37.9%	10.5%	2.1%	87.4%	84.1%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	49.9%	39.7%	8.6%	1.8%	89.6%	86.6%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	53.2%	36.8%	8.1%	1.9%	90.0%	85.5%
⑩先生の指導に満足している。	57.5%	35.7%	5.8%	1.0%	93.2%	87.5%

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

高等学校

	A	B	C	D	2024年度 A+B	2023年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	60.5%	32.5%	5.7%	1.3%	93.0%	95.1%
						
②その授業で何が重要なのがわかる。	53.7%	34.9%	8.8%	2.6%	88.6%	91.9%
						
③授業の進捗やレベルが自分に適切だと感じる。	53.6%	35.1%	8.7%	2.6%	88.7%	90.5%
						
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	59.5%	31.7%	6.2%	2.5%	91.3%	94.0%
						
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	55.0%	33.8%	8.2%	3.0%	88.8%	91.9%
						
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	50.8%	37.6%	8.6%	3.0%	88.4%	89.7%
						
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	50.5%	34.5%	11.1%	3.8%	85.1%	88.5%
						
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	50.4%	36.6%	9.6%	3.5%	87.0%	89.3%
						
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	53.9%	34.0%	8.6%	3.5%	87.9%	90.7%
						
⑩先生の指導に満足している。	58.3%	31.8%	7.0%	2.9%	90.1%	93.6%
						

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

< 1 > ~ < 1 0 >

項目 番号	中高全体					項目 番号	中学					項目 番号	高校				
	A	B	C	D	スコア		A	B	C	D	スコア		A	B	C	D	スコア
①	59.4%	33.7%	5.8%	1.2%	1.44	①	50.9%	42.4%	6.3%	0.5%	1.37	①	60.5%	32.5%	5.7%	1.3%	1.45
②	53.2%	35.8%	8.6%	2.4%	1.29	②	49.2%	42.6%	7.4%	0.8%	1.32	②	53.7%	34.9%	8.8%	2.6%	1.28
③	52.9%	36.1%	8.6%	2.5%	1.28	③	47.8%	42.9%	8.1%	1.2%	1.28	③	53.6%	35.1%	8.7%	2.6%	1.28
④	58.7%	32.8%	6.1%	2.4%	1.39	④	52.5%	40.4%	5.3%	1.8%	1.37	④	59.5%	31.7%	6.2%	2.5%	1.40
⑤	53.9%	34.7%	8.5%	2.9%	1.28	⑤	45.7%	41.4%	10.5%	2.4%	1.18	⑤	55.0%	33.8%	8.2%	3.0%	1.30
⑥	49.8%	38.4%	8.8%	3.0%	1.23	⑥	42.6%	44.7%	10.3%	2.5%	1.15	⑥	50.8%	37.6%	8.6%	3.0%	1.25
⑦	50.4%	34.9%	11.0%	3.6%	1.18	⑦	49.5%	37.9%	10.5%	2.1%	1.22	⑦	50.5%	34.5%	11.1%	3.8%	1.17
⑧	50.3%	37.0%	9.4%	3.3%	1.22	⑧	49.9%	39.7%	8.6%	1.8%	1.27	⑧	50.4%	36.6%	9.6%	3.5%	1.21
⑨	53.8%	34.3%	8.5%	3.3%	1.27	⑨	53.2%	36.8%	8.1%	1.9%	1.31	⑨	53.9%	64.0%	8.6%	3.5%	1.56
⑩	58.2%	32.3%	6.9%	2.6%	1.37	⑩	57.5%	35.7%	5.8%	1.0%	1.43	⑩	58.3%	31.8%	7.0%	2.9%	1.36

A : よくあてはまる B : ややあてはまる C : あまりあてはまらない D : まったくあてはまらない

【分析及び改善策】

昨年同様、全体的に良好な結果であると読み取ることができる。特に中学校のスコアの向上が顕著である。ただし、授業に関しては常に改善を促し、教員個々の研鑽が必要である。今後も校内研修や研究授業によって授業力向上に努める。

【評価】

今年度の評価は、中学及び高校ともに、全項目のスコアが 0.8 以上と良好な結果であることから、A～C の 3 段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、A とする。

8. 2024年度（令和6年度）学校目標に対する評価及び次年度の課題と改善策

評価項目（1）目指す教師像の実現	自己評価
<p>具体的方策 モチベーション・マネジメント制度によって、教員の意識向上と行動の変容を図る。</p> <p><活動実績と自己評価> モチベーション・マネジメント制度導入6年目となり、運用に関して大きな問題は生じていない。今年度からは部活動なども評価に反映できるように改良した。FFシートには「目指す教師像」の自己評価項目を設定しており、教員が年度の中間に各項目の振り返りを行い、年度末に最終の自己評価を行っている。評価は各項目 s・a・b・c の4段階評価にして、sは「十分満足できる」、aは「満足できる」、bは「満足できないことが若干ある」cは「満足できない」としている。s・aを良好として考え、各項目の人数の割合を算出すると、①「生徒の無限の可能性を信じ、成功と失敗を通して成長をさせる教師」78.0%、②「コミュニケーションを十分にとって信頼される教師」80.5%、③「温かさをもって、場面に応じて厳しく指導できる教師」70.7%、④「学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師」70.7%、⑤「敬意、感謝、信頼をもって、お互いに言うべきことは言い合う教師」80.5%、⑥「コミュニケーションを十分にとって助け合う教師」85.4%、⑦「専門分野に精通し、授業力、指導力を高め続ける教師」65.9%、⑧「向上心をもって新しいことに挑戦しながら、振り返り、改善できる教師」75.6%、⑨「社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追求する教師」56.1%、⑩「常に心が健やかな教師」51.2%であった。項目⑦⑨⑩に関しては課題があると考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策> 上にあげた項目⑦⑧⑩に関しては、教員の仕事量や煩雑さの問題が大きく影響していると推察する。これは、昨年度と同様の結果で、課題が残っている状態であり、管理職がその現状をしっかりと受け止めて改善のための具体的方策を実践する必要があると考える。</p>	B

<p>評価項目（２）スクールミッション・スクールポリシーの実現</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。</p> <p><活動実績と自己評価> 目標指数である 80%に関しては、保護者アンケートで本評価項目全体の平均で「よくあてはまる」「ややあてはまる」82.9%であり、目標の評価指標を達成することができた。教員アンケートでも該当項目人数割合平均が「よくあてはまる」「ややあてはまる」86.7%であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p>生徒による自己評価アンケートの該当項目人数割合平均が「かなり身についているように感じる」「身についているように感じる」「少し身についているように感じる」を合わせて 96.1%であり、目標の評価指標を達成することができた。ただし、「少し身についているように感じる」生徒の割合(44.5%)が多いことには留意しなければならない。</p> <p><次年度の課題と改善策> 結果は良好ではあるが、スクールポリシー（特にグラデュエーションポリシー）を生徒にさらに意識させ学校生活を送ることができるような具体案（教室掲示等）を実行する。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 各行事をスクールポリシーに沿って運営する。</p> <p><活動実績と自己評価> 各行事の要項を作成する際には、その目的にスクールポリシーが反映されるように努めたが、項目が複数あり目的を絞ったポリシーの組み込みを行うべきと考える。各行事の生徒の振り返りにあたっては、スクールポリシーを意識したアンケート等になるように努めた。</p> <p><次年度の課題と改善策> 次年度は行事の要項作成及び運営では「グラデュエーションポリシー（卒業時に身についている力）」に絞って分かりやすく意識できるようにする。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>

評価項目（3）ICTの活用充実	自己評価
<p>具体的方策 教員用 iPad の追加導入及び、各授業における Chromebook の利用調査を行う。研究授業においても積極的に ICT を活用する。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>今年度も教員用の iPad を追加導入し、ほぼ全教員に iPad の配当ができています。生徒端末の Chromebook 導入も順調に運用できています。中学校では総合的な学習の時間、高校では総合的な探究の時間では ICT が必須となる授業展開を行っており、その他の教科でも課題の配信や連絡事項、テスト返却等も ICT を使って行っている。今年度は、3F と 4F のプロジェクターを新しいものに交換して ICT の授業環境を改善した。各授業における Chromebook の活用調査は実施できなかったが、活用は確実に広がっている。</p> <p>教員による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が 95.1%、保護者による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が 89.1%であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p>生徒による自己評価アンケートは「ICT(iPad や Chromebook など)を十分に学習に活用でき、学力向上につながっている」「ICT(iPad や Chromebook など)をかなり学習に活用できている」「ICT をある程度学習に活用できている」が 83.7%であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>引き続き ICT の活用充実と環境改善を図る。次年度も引き続きプロジェクターの入れ替えや Wi-fi 環境の拡充を実施する。ただし、すでに活用ができていることは確認できているので、利用調査に関しては終了する。</p>	B

評価項目（４）学力向上	自己評価
<p>具体的方策① 授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>「2023年度(令和5年度)生徒授業評価アンケートと結果分析」をもとに、2024年度(令和6年度)冒頭に全教員でアンケート結果を共有し、振り返りを行った。また p15 に記載した通り、中高ともに全項目良好な結果であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>授業評価アンケート結果は良好であったが、p6 にあるように、高校の保護者において一部要検討事項がある。生徒と保護者の差を埋められるように対策していく必要がある。また、引き続き模試等の成績についても安定した高い学力が維持できるような授業・学習提供を行い、指導体制をさらに強化していく。</p>	A
<p>具体的方策② ②研究授業を実施し、教科指導強化を図る。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>目標とした「分科会参加後の満足度調査アンケート該当項目 80%」だが、満足度 78.2%（回答者 46 名のうち満足者 36 名）という結果であったため、ほぼ目標を達成できたと考える。ただし、未回答者が 10 名ほどいたので、満足度調査等の振り返りに関する意識も高めていかなければならないと考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>振り返りのアンケートでは、他者の授業を見ること及び、他者と意見交換をすることで多くの学びがあった旨が多く記載されていた。ただ、学年やコースを満遍なく実施したり、分科会の時間設定や授業者の負担など、改善が必要なことも認識した。次年度に本件を活かしていく。</p>	自己評価 A

評価項目（４）学力向上	自己評価
<p>具体的方策③ 各種検定の指標を示し、生徒が率先して資格取得に取り組む姿勢をサポートする。 <活動実績と自己評価>各学年における英検・GTEC スコア・漢検の指標を学年及び英語科・国語科より示し、それぞれの目標達成に向けて生徒の学力サポートに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検の各学年における目標達成率については次の通りである。※()内が目標の評価指標 <ul style="list-style-type: none"> 中2及び中3ともに大きく目標値を上回ることができた。高1は目標値をほぼ達成することができていた。高2は目標値を達成することができなかった。 <p><中学> 英検取得率指標 中2 S文理) 3級 90%(50%) 学際)4級 74%(50%) 中3 S文理) 準2級 86%(40%) 学際)3級 52%(50%)</p> <p><高校>英検 取得率指標 高1 特進)準2級 52.3%(50%) 総合・看護)3級 49.0%(50%) 高2 特進)準2級 65%(80%) 総合・看護)準2級 24(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学の漢検における目標達成率については次のとおりである。※()内が目標の評価指標 <ul style="list-style-type: none"> 全学年ともスーパー文理コース(S文理)は目標値を達成することができたが、学際コースは達成できなかった。 <p><中学> 漢検取得率指標 中1 5級・4級 S文理 80%(60%) 学際 48%(50%) 中2 4級 S文理 91%(80%) 学際 21%(50%) 中3 4級・3級 S文理 88%(80%) 学際 19%(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校のGTECのスコアの目標達成については次のとおりである。※()内が目標の評価指標 <ul style="list-style-type: none"> 高2及び高3ともに目標値を大きく達成することができた。 <p><高校>GTEC スコア指標(高2・高3) スコア平均 前年度比較(40ポイント以上) 高2) 高1→高2の平均スコア +64 高3) 高2→高3の平均スコア +124</p> <p><次年度の課題と改善策> 英検に関して、中学校及び高1に関しては順調であるため今後も目標を達成できるように指導していく。高校2に関しては指導の見直しを行う必要がある。中学校の漢検に関して、スーパー文理コースに関しては順調であるため今後も目標を達成できるように指導していく。ただし、学際コースに関しては指導の見直しが必要である。高校のGTECについては、例年通り順調であるため、今後も目標を達成できるように指導していく。</p>	B
<p>具体的方策④ 模試の指標を示し、学年として学力向上に努める。</p> <p><活動実績と自己評価> 高校の各学年における模試の指標を今年度から設定し、強化担当者と連携して目標の達成に努めた。各学年の目標達成については次のとおりである。※()内が目標の評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 高1は掲げた目標値に若干届くことができなかった。高2の特進コースは目標値を達成することができたが、総合進学・看護医療コースは目標値を大きく下回った。 <p>※()内が目標の評価指標 高1 2学期以降のベネッセGTZゾーン B 42%(50%) 高2 特進 2月共通テスト模試(河合) ss60)4名(3名) ss55)5名(5名) ss50)10名(10名) 高2 総合・看護 2月共通テスト模試(ベネッセ) GTZゾーン S)0名(2名) A)0名(7名) B)25名(42名)</p> <p><次年度の課題と改善策> 目標が達成できた学年・コースとできなかった学年・コースがあるので、それぞれの分析を行い、それぞれの学年・コースの目標達成に必要な指導を再度、学年と教科で検討する必要がある。また、高2総合・看護コースの評価指標に関しては見直しが必要であると考えます。</p>	B

評価項目（５）進学実績の向上	自己評価
<p>具体的方策 生徒の能力を最大限に伸ばし、希望する進路を実現するための学習指導と進路指導を担当と教科担当者が密に連携して実現する。</p> <p><活動実績と自己評価> 今年度の進路結果に関しては以下の通りであり、目標の評価指数を全て項目に対して達成することはできなかった。ただし、初めての特進コースとして大阪大学に合格者を出せたこと、地方も含めて国公立大学への意識付けと外部入学生(3年間指導)の国公立大学合格者を伸ばせたことは評価できる。また、総合進学コース及び看護医療コースにおいても、指定校推薦制度に頼らない進路実績の向上ができたことは大きく評価できる。※()内が目標の評価指標</p> <p>国公立大 合格者数 8名(15名) ※京阪神大または旧帝大を含む</p> <p>関関同立 合格者数 26名(30名) 産近甲龍・三女子大 合格者数 46名(30名) ※総合進学・看護医療は上記私立大学の合格に総合型選抜、学校選抜型(公募制)、一般入試の合格を含む</p> <p><次年度の課題と改善策> 引き続き特進コースの国公立大学の目標として掲げた合格者数を達成させる。そのためにも、高1から(内部生は中学から)、大学名や場所に重点を置いた進路選択ではなく、研究・学問と自身の学力に重点を置いた進路選択ができるような進路学習を実施する必要がある。また、特進コースにおいては、教科を絞らずに学びを進める国公立大学受験の希少性(文理横断の学び)から、後期受験までしっかりと意識付けさせる必要がある。共通テスト利用型の私立入試についても進路指導をしていく必要がある。</p>	B

<p>評価項目（6）入学者数の増員</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 学びの環境を整え、受験生とその保護者にアピールする。</p> <p><活動実績と自己評価> 中学においては、新たに放課後学習（ハイレベル進学講座・Shin-Ai 講座及び放課後自主学習セミナーにおける開成教育グループとの連携）をして説明を行った。 高校においては、学習メンター制度、校内予備校講座、夏期講習（駿台予備校早期共通テスト対策含）などをブラッシュアップした。また、卒業研究は教育連携大学と協力した連携校出題テーマプログラムを開始し、学びの環境をさらに拡充した。 中学校は、昨年度より多い41名の入学者を確保することができた。高校は、引き続き定員を確保し246名の入学生を迎えることができた。高校は目標値を達成し、中学は毎年右上りに目標値に順調に近づいている。</p> <p><次年度の課題と改善策> 中学に関しては、新しく始めた放課後学習をブラッシュアップし、その内容をしっかりとアピールして目標値の達成を目指す。高校に関しては、入学者数の維持及び増員を目指してさらに学びの環境を整え、全国トップクラスの学習環境を目指して受験生や保護者にアピールしていく。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 重点地域を意識した募集活動を行う。</p> <p><活動実績と自己評価> 近隣の中学校との連携を強化し、各種イベント案内や学校説明などを行った。今年度は、新たにマナー実践講座なども近隣の中学校で実施することができた。結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。</p> <p><次年度の課題と改善策> 中学は、塾との連携を強化していき、特にプレテスト奨学生による受験生を増やすことに注力する。また、併設小学校についてもプレテスト奨学生及び内部進学特別奨学生（ともに入学金免除・授業料免除）の利点をしっかりとアピールする。高校は、引き続き近隣中学校との連携を強化し、受験につながるよう募集活動を行っていく。また、新たな募集対策を検討企画、実施する必要がある。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>
<p>具体的方策③ 各種イベント、広報ツール・方法を改善する。</p> <p><活動実績と自己評価> 各種イベントについては、オープンキャンパス（オープンスクール）や入試説明会の内容を見直し改善した。中学では学びの環境の充実と高校の教育内容を連動させた広報を行った。高校では初めて部活動体験フェスを中2対象に行った。広報ツールとしては、紙媒体に加え、HP、共学特設サイト（高校のみ）、Instagram、YouTube 広告などを使って宣伝を行った。結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。</p> <p><次年度の課題と改善策> オープンキャンパス（オープンスクール）の内容に関してはさらに改善できるように入試広報部を中心に企画検討、実施を行っていく。中学においては、各種広告媒体及び説明会での内容をブラッシュアップして広報活動に努める。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>

9. 2024年度（令和6年度）学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員会の構成

後援会代表2名・愛友会（同窓会）代表2名・教育会代表（高校副会長及び中学評議員）2名
中高教員代表（校長・副校長・教頭）3名 計9名

(2) 開催日時

2025年7月5日（土）9：00～10：15

(3) 評価のために使用した資料

2024年度 学校評価報告書原案

- ・学校目標と具体的方策及び評価指標
- ・学校評価アンケート（保護者・教員）と結果分析及び評価
- ・生徒授業評価アンケートと結果分析及び評価
- ・自己評価及び次年度の課題と改善策
- ・2025年度の方針（教育改善PDCAサイクルのイメージ）

(4) 学校関係者評価委員会における意見

<全体・雰囲気>

- ・地下鉄など、公共交通機関で信愛生と出会うが、他校と比べて落ち着いていて雰囲気が良い。
- ・共学化して、男子生徒も女子生徒も外で仲良く遊んでいる姿が信愛らしく良い。

<学習 及び 学校生活>

- ・「学習メンター制度」「グローバルコモンズ」「大学体験ツアー」などは、他校と比べて充実していると言える。
- ・自分の娘の時代から教育も随分変化したと感じた。
- ・先生方が優しく、手厚い指導があると感じている。学年懇談で「自分も親として接するので厳しく指導することもあるので許して欲しい」と言われたことに感銘した。
- ・中学校から社会人講演会や進路講演会などがあり、勉強の意義も伝えてくれたので、子ども共々勉強になっている。
- ・家に帰ってから授業で聞いた話などを聞き、子どもたちにとって生きた学びとなっていると感じている。

<進学>

- ・大学進学に力を入れていることが感じられる。
- ・地方を含めて国公立大学を目指していくことに共感する。自分の子どもも地方の国公立大学に進んだが、同じ受験を通してだからか（内部推薦や一般推薦がないからか）、学習をはじめ気の合う友人とも出会うことができた。
- ・自分の子どもも地方の国公立大学に進んだが、最初は親として寂しさを感じたが、結果として自立心が芽生え非常に良い経験となった。

<今後の課題>

- ・面倒見の良さも非常に良いが、学習を含めて学校生活の波にうまく乗れない生徒が出ないような仕組みづくりも必要である。
- ・自分の子どもが高校に内部進学して、一貫教育の集大成を垣間見ることができた。そのため、中学時代から一貫教育の先にある学校生活や学習を見せることで内部進学率を上げることもできると考える。
- ・高校では、特に学習面での内部生と外部生の認識の違いを感じることもあるため、入学時に生徒と保護者に「学習量が多くなること」「そのためにはどのように時間を使えば良いか（学習メンターの利用など）」などを管理職から説明し、ご理解いただくことも必要と考える。また、連絡（Classi）の活用についてのご理解もいただく必要がある。

10. 2025年度（令和7年度）の方針（教育改善PDCAサイクルのイメージ）

P

- 1 目指す教師像の実現
- 2 スクールミッション・スクールポリシーの実現
- 3 ICTの活用充実
- 4 学力向上
- 5 進学実績向上
- 6 入学者数増員



D

- 1 教員の意識向上と行動の変容の促進を目的としたモチベーション・マネージメント制度の実施
- 2 教員及び生徒の自己評価の実施 及び スクールポリシーに沿った各教育活動(行事等)の実施
- 3 ICT環境の拡充・充実
- 4 授業評価アンケートの振り返り・共有の実施 及び 研究授業の実施、英検・漢検・GTECスコアの各学年における目標達成に向けた学習指導の実施、各学年における模試に関する目標達成に向けた学習指導の実施
- 5 希望する進路を実現するための学習指導 及び 教科担当者と連携した進路指導の実施
- 6 充実した学びの環境のブラッシュアップとアピール、重点地域を意識した募集活動、各種イベント・広報ツール等の見直しの実施



C

- 1 教員のモチベーションマネジメント制度・FFシートの分析
- 2 教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
- 3 教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
- 4 各学年及び教科による各種検定 及び 模試の分析
- 5 進路指導部及び高3学年会、教科担当者による分析
- 6 管理職、募集広報部 及び 募集広報連絡会における分析



A

- 1 行動変容の実践
- 2 具体的教育内容の実践
- 3 ICT環境の再整備と有効利用の実践
- 4 各指標達成のための指導改善の実践
- 5 目標達成のための取り組みの実践
- 6 教育内容のブラッシュアップ 及び 広報活動の実践